

2016/17 WEEKLY BULLETIN



国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区B

市原ロータリークラブ会報



第 2577 回例会 2017 年 1 月 18 日 (水) | SAA (司会) / 杉井会員 会報担当 / 平野会員

事務局 市原市五井中央西 1-22-25 市原商工会議所 2F 例会場 五井グランドホテル

- 点 鐘 市原 RC 会長 西村芳雄
- ソング 我等の生業
- お客様
- 会長挨拶 市原 RC 会長 西村芳雄



皆さん、こんにちは。

今年年初から穏やかな日々が続いておりましたが、やはり自然界は凄いです。16日までの9日間は大雪の襲来でした。ここ千葉県では左程ではなかったのですが、日本海側や西日本では大雪です。14日の朝ニュースを見ておきますと、過疎地での93歳の老女が雪かきをしておりました。気の毒にも犠牲者も出ましたし事故もありました。ところで、私が初めて自然の恐ろしさ・脅威を感じたのは、22年前の平成7年(1995年)1月17日の阪神大震災です。当時、大阪の高槻に住んでいたのですが、先ず、映像で見ましたのが阪神高速道路の崩壊です。映画のロケかと思ったほどで、一生忘れられないだろうと思いました。その後、これが引き金になったのかと思えるほど、毎年のように、水害などで50年に一度とか、観測史上初めてだと言われる災害が起こっております。そして、阪神大震災以上の事はもう経験する事はないだろうと思っていましたら、悪夢としか思えない平成23年(2011年)3月11日の東北大震災です。間もなく6年になりますが、この傷は癒えることはないでしょう。「ノーモア災害」です。

さて、今月は職業奉仕月間です。そこで、今日のメインプログラムは職業奉仕についてのディベートです。白鳥会員にコーディネートをさせていただいて、ディベーターには上條会員と小池会員のお二人をお願いしております。この職業奉仕については、クラブでもあるいは地区に

おいてもそれぞれ会員の思いは異なっております。私が職業奉仕委員長を拝命しておりました時に地区主催の協議会がありました。その時の議題が「職業奉仕委員会は必要かどうか」でした。テーブルディスカッション形式で行われ、各クラブの代表者が所属クラブについてあるいは個人の認識を自由に発言し合いました。そして、その意見をテーブル毎に発表しましたが、結論的には僅差で委員会は必要という事になりました。また、ロータリーの友の今月1月号では、前橋ロータリークラブの本田バスターが職業奉仕について寄稿されております。この本田様には、上條会員のお骨折りにより、一昨年は前橋に3人で行きまして例会後に教えをいただきました。また、昨年の1月には五井グランドホテルにお越しいただき多くの会員とともに炉辺会談形式によりロータリーなどについて勉強させていただきました。そして、今回のこの寄稿を拝読いたしますと、本田様もかつては、職業奉仕は他の奉仕部門の上位概念のようなものと思っていたと書かれています。そして、伝統的職業奉仕論を超えて、その実践が大事だとも書かれています。私には、なかなか難しく、何度も読み直しながら理解して行かねばと思っています。今日は、この永年議論されてきた職業奉仕について、当クラブにおいてはロータリーについて最も精通され卓越した見識のあるお二人に議論していただく中で、この職業奉仕が理解していければと思います。正解・不正解のような結論が出るものではないと思いますが、私どもにとりましては職業奉仕を理解して行く上で大変参考になるはずで、また、このディベートにより、山本エレクトも次年度の委員会構成に参考になるのではないのでしょうか。宜しくお願いたします。以上で、本日の会長挨拶を終わります。有難うございました。

本日のメインプログラム

Debate[職業奉仕委員会は必要か?]

コーディネーター 白鳥政孝

ディベーター 上條優雄

小池清二

白鳥:

職業奉仕委員会は今後も必要か、不必要か、ディベーターのご意見を伺い、その後に皆さんのご意見も聞かせてもらいたいと思います。

最初に不要論を唱える上條さんからご意見を伺います。

上條：

今日は小池会員との Debate です、クリントン対トランプの様な非難・中傷にはならないと思いますが、それでもしっかりと論点の相違点を述べたいと思います。判断するのは聴衆の皆さんです。

RavindranRI 直前会長が退任するに当たって次のようなメッセージを述べています。



「変えてはならないもの、それは奉仕の理念 (The Ideal of Service) です。変えねばならないもの、それは奉仕の行動です。委員会組織を見直し、その委員会活動の効率化を図りましょう」なるほど、去年春の規定審議会で諸々のクラブ規制緩和策が打ち出されたのは、それが底辺にあつての改正なのですね。

桜木直前ガバナーは年度末報告の月信 13 号の挨拶で、「各クラブはCLPを率先垂範して下さい。今後のクラブの盛衰はこれに懸かっています。」と述べています。9月の地区大会の昼食時に、喫煙所で桜木さんにお会いし雑談しました。「あれは桜木さんの一年間のご苦勞の集大成ですか?」と尋ねましたところ、「いや、ガバナー在任中にこれを言うと地区内に波風を立てるので、退任した現在まで公表できなかったのだよ」と言われました。つまり、地区内でCLPに対し温度差があるということでしょう。CLPは①クラブの規模 (会員数や会員の活性化度合い)、②クラブの歴史、③地域性、で導入の仕方が変わってきます。地区の指導を当てにせず、自らの手で推進していかねばなりません。

市原RCは4半世紀前には60～70名の会員を有しておりました。その頃の委員会組織を見ますと16委員会前後です。現在は40名で22委員会です。最高は理事会も含めると5委員会に所属している人が3人、平均的には一人あたり3委員会に所属しています。これで情熱を込めて委員会活動に集中することが出来るでしょうか?

CLPの肝は標準細則に示されているように、クラブ運営、会員増強、公共イメージ、R財団、奉仕プロジェクトの5委員会にするのが理想です。しかるに当クラブの今年度の組織図を見ますと委員会と名の付く組織が理事会も含めると23あります。存在価値の薄い委員会はなるべく閉鎖、または他の委員会と合併して、会員の重複委員会所属を極力少なくし、その代わりに委員会の定例開催を全員参加で確

実化していくことがクラブの活性化に不可欠です。委員長ひとりが業務を司るのは、クラブの末期症状です。

今日の本題である職業奉仕委員会ですが、実は昨年度は私が委員長でした。奉仕の理念について宅話も行いました。前橋RCの本田パストGをお呼びして、宅話も頂きました。その夜は炬辺会談も行いました。その他諸々の委員会活動を行ったつもりですが、それが会員皆様の職業奉仕理念を向上させたとは到底考えられません。ならばどうすれば奉仕の理念を向上出来るのでしょうか?

RI元理事である京都RCの千宗室さんは、こう解きます。「どんな委員会でも良いから、自分が所属する委員会の奉仕活動に情熱を持って取り組むと、必ず他の会員から感謝の一言があるし、それが社会奉仕や国際奉仕、青少年奉仕などであれば、地域社会の人から感謝の気持ちが示されます。そんな経験を幾つかの委員会であらう内に、奉仕の理念は自然と身に付いてくるものです。それを自らの職場で実践すれば、それは立派な職業奉仕となるのです。」

千宗室さんが大阪 RI 国際大会の大会委員長を務めたとき、48,000 人の登録者を集め、これはロータリー 100 年の歴史の中で最高記録です。彼の人的魅力が多くの人を集めたと言って良いでしょう。彼は神風特攻隊の生き残りなのです。大変な辛酸を舐めて得た彼の魅力なのです。

西郷南州は遺訓集の中で、こう述べています。「幾度か辛酸を歴て、志初めて堅し」知識だけ治めていても事はなりませんよ。何度か汗を流し、辛い経験を踏んで、初めて志は叶うようになるのですよ、という意味です。西郷は2度も鳥流しになっています。辛い思いをしたでしょう。その経験があつて、江戸城無血開城を成し遂げたのです。

奉仕の理念を知識として覚えるのでは無く、行動で修得することが大切です。ですから職業奉仕委員会は不要だと思っています。どうぞ「奉仕の理念」と「職業奉仕委員会」を同一視しないで下さい。今、市原RCに必要なことは、クラブの活性化です、その為にCLPを導入することです。ただし、CLPの導入を図るには、その必要性を全会員が認識していることが大切です。当クラブは12年前にCLP導入を図りましたが失敗しました。それは組織の変更から取り組んだためと私は思っています。何故CLPの導入が必要なのかを「皆で考え、皆で行動していく」このコンセンサス作りが出来ていないと失敗します。CLPの肝はクラブ組織の簡素化と奉仕活動の効率化です。CLPの導入が次年度に可能かどうかは別の問題で、慎重に考えてゆかねばなりません。何しろクラブの存続の掛かっている問題ですから。

故に職業奉仕委員会は次年度より廃止し、その任務は奉仕プロジェクト委員会が担当すべきだと思います。

白鳥：

次いで職業奉仕委員会必要論を唱える小池会員にご意見を如何居ます。

小池：

上条さん、先陣を切つての廃止論を發表していただき、誠に有難うございます。職業奉仕の総論と委員会活動論等をもとに委員会の廃

止論を述べられました。

私は身近なところで、私の市原ロータリークラブ（以後 RC）入会からの職業奉仕委員会の経験をもとに必要論を述べてみたいと思います。私の入会は、市原 RC から市原中央 RC の子クラブ誕生時に8人が移ったための補充要員です。

入会勧誘時のお話では、RC には進出企業の所長さんが大勢居り、例会卓話で企業理念、経営論等をよく聞けますよ、とのことに賛同入会いたしました。

入会時、何冊かの書類を頂き、読んでみましたが、よくわかりませんでした。例会に参加する内に、所々について教えて頂いたり、例会卓話で委員長の特別月間等でお話を拝聴し、次第に興味を湧いてきました。クラブにはクラブ管理と奉仕活動委員会があることを知り、その中に職業奉仕委員会があることがわかりました。齊藤博会員のロータリー卓話がシリーズでなされ、ロータリーの発生史の中で資本主義経済の醜い時代のシカゴ RC にアーサーフレドリック・シェルドンという販売学・経営者が入会なさり職業奉仕理念を導入しました。

それは「He Profits Most Who Service Best」、(最も多く奉仕する者、最も多く報いられる)と言う学説で商売をすれば、顧客が増えて、適正な利潤が上がり、末永く商売ができますよ、と提唱したところ、急速に各地にロータリークラブが創設されました。これが職業奉仕の始まりです。

又、同時期、フランズ・コリンが次の名言を紹介しました「Service, not self」・・・1921年「Service, above self」(超我の奉仕)・後年、ハーバート・テイラーが倒産企業の再建に全社挙げて取り組み「四つのテスト」を発表(倒産企業再建築)

この3つの標語が卓話時や地区職業奉仕セミナー等、特別講演会で内容説明がたびたび聞くことが出来、自己の職業に参考できることがございました。

企業人は経営理念がしっかりしていて統率が取れていることがわかりました。異業種の経営者43人が集まった市原 RC であるため、43通りの職種の経営理念があり、毎日毎日経営努力をされて利益を上げられているものと思います。身近に職業理念をお持ちの先生方がおりますので、なんでも聞くことが出来、参考となります。

私もこの3つの標語と会員の職業経営理念を常に活用し「より多くの人に、より早く、よりよい診療を」理念として、毎日努力をしておるところです。行きつくところは口腔機能の管理と健康な体づくりです。これはロータリーに入会し、職業奉仕理念を学んでいればこそできることで、大変感謝しております。

従来の四大奉仕の20近い小委員会から、クラブ強化のための CLP 導入による5委員会に組織管理の変更がなされ、その中の1委員会として職業奉仕活動プロジェクト委員会が位置付けされました。四大奉仕はロータリー活動の中心をなすもので、超我の奉仕を念頭に置いて、会員全体で考え、計画し、実行に移していくことです。従って大いに活動できることになりました。

米山梅吉氏は「ロータリーは人生の道場だ」と申しました。

又、ロータリーは「入りて学び、出でて奉仕せよ」と言われています。そして、究極的には、ロータリーは「人作り」だとも言われております。クラブで職業奉仕の理念や、会員の経営理念の情報交換をすることで、眞の親睦が生まれ、その結果一致団結して社会に奉仕して行けるものと思われま



激動の世界、予測もつかぬ世の中が進みつつあります。しかし、ロータリーの奉仕理念は不変です。

皆で市原 RC の活性化のため、職業奉仕委員会を残し、育てていくたく存じますので宜しくご支援いただきたくお願い申し上げます。

以上、必要論を述べさせていただきました。

白鳥：

もう一度お二人に伺います。一言で職業奉仕委員会が必要かどうか、を述べていただくと、どういうことでしょうか？

上條：

著書「ロータリー入門書」の中で前原勝樹さんは、こう述べています。2007年規定審議会でクラブ定款に入れられた4大奉仕の第二項には、「奉仕の第二部門である職業奉仕とは、事業および専門職の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理想を生かしていくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うことが含まれる」と明記されていて、クラブの役割には触れていません。職業奉仕の理念は自らが経験の中で修得していくものだと考えます。

小池：

ロータリーへの入会を勧める時に、必ず聞かれるのは「ロータリーって何をしているのか？」という質問です。そこで「自らの職業を通じて、社会のためになることが基本の奉仕活動理念です」と答えるのですが、良く理解されないようです。実質的には先輩会員から教わる人が多いのですが、例会等の宅話の中から教わるケースもあり、職業奉仕委員会は必要と思います。

白鳥：

お二人のディベーターの論点の相違点も見えてきたようです。このお二人の意見に聴衆の皆様より、質問有り、ご意見がありましたら、お聞かせ下さい。

始関：

上條さんが言う組織の簡素化は必要だと思います。ですが、職業奉仕委員会が不必要かと言えば、職業奉仕の理念はロータリーの核心的な理念であって、これを会員に享受する職業奉仕委員会は必要と考えます。

白鳥：

現在、委員長のみが委員会業務を司り、委員会を開かないケースが増えているように思いますが、これをお二人はどのようにお考えですか？

上條：

それはロータリーを衰退に導く、末期的症状だと思います。委員会を定例開催していかねばなりません。

小池：

新細則では「月の例会を2回以上開く」とありますが、後の2回を皆で集まって委員会を開くようにしてはいかがでしょうか。

白鳥：

ともかく話し合う機会を多く持って、意見交換の頻度を上げるということですね。今後も話し合いを続けていきましょう。万崎さんは直前会長として、何かご意見はありますか。

万崎：

まず、行動を起こすことが必要かだと思います。

白鳥：

上野さんは地区役員もされていて、何かご意見ありますか。

上野：

私も職業人として、他人の嫌がるような仕事を率先して請けていこうと思っています。

白鳥：

最後に次年度会長の山本さん、何かご意見はございますか。

山本：

今日のディベートは大変参考になりました。来週は次年度委員会組織をどのように持っていったら良いか、クラブ協議会にて長期計画委員会が作成した原案を基に、皆さんの意見を伺いたいと思っています。宜しくご参集下さい。

白鳥：

時間でございます。色々なご意見を頂き、ありがとうございました。

今日のディベートでロータリーについて理解を深めることができました。ありがとうございます。来週はニュー南総GCにてクラブ協議会を行いますので、宜しくお願いします。

西村会長、岡本幹事

上條会員、小池会員、本日はテーマ「職業奉仕委員会は必要か」のディベートをして頂きありがとうございました。

また、白鳥会員には司会をして頂きありがとうございました。

■出席報告 前々回確定 50.00% 本日出席 22名
欠席 18名 本日出席率 57.89%

■点 鐘 市原 RC 会長 西村芳雄

委員会報告等

- ・長田会員 ポールハリスフェローです。
- ・会員拡大万崎委員長 新入会員の紹介よろしくお願いします。



小池会員、上條会員

ディベートを聞いて頂き、ありがとうございます。

山本順也会員

